

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	川路 智治
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>技術科における安全に関する資質・能力と指導に関する研究</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教授 長松 正康</p> <p>審査委員 教授 磯崎 哲夫</p> <p>審査委員 教授 古賀 信吉</p> <p>審査委員 准教授 谷田 親彦</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、中学校技術・家庭科技術分野（以下、技術科）の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性を明確にして、技術科における安全教育を系統的・体系的に実践するための指針を示したものである。また、技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性に基づいたモデル授業を考案し、試行的実践と評価を行っている。</p> <p>本論文の構成は次の通りである。</p> <p>第1章では、学校における安全教育及び技術科における安全教育の課題を明らかにしている。まず、学校における安全教育の課題については、安全・安心な生活や社会づくりに必要な資質・能力を育むために、各教科における目標・指導内容と安全に関する資質・能力との関連性を明らかにする必要があることを指摘している。次に、それを踏まえて技術科の安全教育に関わる先行研究を概観し、技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関係が検討されていないことを指摘している。これらのことから、技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性を明確にして、技術科において系統的・体系的な安全教育を実践するための知見を得る必要性を指摘している。</p> <p>第2章では、日本の技術科で安全に関する資質・能力を適切に扱う示唆を得るために、英国と米国の技術教育で使用されている安全教育に関わる各種資料を分析している。英国の技術教育で使用されている安全教育に関わる各種資料は、技術教育を担当する教員が習得すべき安全に関する知識と技能について示しており、これを参考に授業が展開されていることを明らかにしている。他方で、米国の技術教育における安全教育に関わる各種資料は、技術教育により育成する生徒の安全に関する資質・能力を示していることを指摘している。これらのことから、日本の技術科で安全に関する資質・能力を適切に扱う示唆を得るために、英国における安全教育の考え方を参考にしながら、米国の技術教育における安全に関する資質・能力を検討し、日本の安全に関する資質・能力に対応させている。その結果、知識及び技能で7つ、思考力・判断力・表現力等で11つ、学びに向かう力、人間性等で2つの資質・能力が日米で対応していることを明らかにしている。</p> <p>第3章では、日本の技術科で実践されている安全教育の特徴や課題を解明するために、</p>			

技術科教科書の安全教育の記述を分析している。その結果、技術科における安全教育の成果が活用される場面は、授業、家庭、社会におけるリスク認知と評価および安全確保であることを明らかにしている。また、技術科教科書で重点的に指導・育成している安全能力は「危険情報の収集」「危険情報の整理」「危険情報の活用」「潜在危険の除去」「自己の安全状態の確認」「施設・用具等の安全確認」「行動ミスの防止」「危険行動の自制」であることを指摘している。

第4章では、技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性を検討した上で、技術科の安全教育に関するモデル授業を実践している。技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性については、第2章の結果から得られた米国の技術教育における安全に関する資質・能力と、第3章の結果から得られた技術科における安全教育の成果が活用される場面に基づき、技術科の各学習過程で育成する安全に関する資質・能力を整理して検討している。このように整理された技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性に基づき、作業工程の安全性を評価する授業場面におけるモデル授業を考案し、試行的実践と評価を行っている。モデル授業の結果から、安全に関するデータを収集し分析することで安全対策の方法を選択する資質・能力が育成されたことを明らかにしている。

第5章では、本論のまとめを行い、今後の課題として生徒の安全に対する意識や行動の実態を調査することによって、技術科における安全教育の効果と今後の安全教育の基本的方向を検討していくことを示している。

本論文は、次の2点で高く評価できる。

1. 技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性を理論的な側面から検討して整理したことである。これまでの技術科の安全教育は、学習活動や使用する工具等に応じて行われており、資質・能力等の側面から体系的に検討されていなかった。本論文では、世界的な動向も視野に入れながら、技術科の目標・指導内容との関連を踏まえて安全に関する資質・能力を整理した点において、系統的・体系的な安全教育の実践に寄与できることが評価できる。
2. 技術科における安全に関する資質・能力を踏まえて授業を計画・実践する指針を示したことである。モデル授業を計画・実践するための考え方を具体的に示したことにより、技術科の目標・指導内容と安全に関する資質・能力の関連性を理論的な知見に止めず、技術科における安全教育の実践を導出する指針として示したことが評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和3年2月10日